第181号　令和7年7月22日発行

総合型地域スポーツクラブ
公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツくじについてはこちらから
［スポーツくじ理念広報サイト「GROWING」］
https://www.toto-growing.com/

特別企画★他団体と連携するクラブ

NPO法人**こまちハート・オブ・ゴールド**（秋田県）

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R7/MM181_komachi.PDF

連載★学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブ

一般社団法人**スポルトフェライン高松**（香川県）

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R7/MM181_suporuto.PDF

コラム★総合型クラブで活躍する若手人材

特定非営利活動法人まつぞのスポーツクラブ（岩手県）**黒澤ちほ**
特定非営利活動法人しんじ湖スポーツクラブ（島根県）**狩野良太**
NPO法人クラブおおづ（熊本県）**桐原正喜**

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R7/MM181_wakate.PDF

助成金情報 ▷▷▷ 詳細

お知らせ ▷▷▷ 詳細

バックナンバー ▷▷▷ 詳細

全体版 ▷▷▷ 詳細

JSPO
Japan Sport Association

特別企画

★他団体と連携するクラブ★

NPO法人こまちハート・オブ・ゴールド

秋田県湯沢市

総合型クラブが地域に定着し、浸透するためには、地域との一体感の醸成が重要となります。そのためには、地域社会からの信頼を確保し、各種機関・団体との相互補助の関係を築くことが必要となってきます。そこで今回は、他団体と連携し、充実した活動を行っている総合型クラブをご紹介いたします。

1　ワクワクを共有しイキイキを楽しむクラブライフ

他団体との連携を積極的に図り、地域振興を充実させて人口増へつなげる活動

当クラブは秋田県湯沢市を拠点とする総合型地域スポーツクラブです。平成17（2005）年3月に湯沢市と雄勝郡雄勝町、稲川町、皆瀬村が合併したことを契機に、雄勝地域のスポーツ振興を担う団体として設立されました。「いつでも、どこでも、だれとでも」というビジョンのもと、スポーツに特化したクラブづくりを進めてきました。しかし、人口減少が進む秋田県の現状のなか（秋田県の人口減少率は昨年10月の総務省人口推計で残念ながら1位でした）、スポーツだけの活動ではクラブも地域も疲弊していくことが予見されました。そこで3年ほど前から、総合型クラブと他団体との連携を積極的に図り、地域振興を充実させて関係人口を増やしつつ、まちづくりへつながる活動に着手しています。

まだ発展途上ではありますが、今年度は開催する教室が12、会員数は250名を数え、着実に一歩ずつ進んでいます。今回のメルマガでは、現在展開する他団体との連携をいくつか紹介いたします。

【開催する教室（12教室）】

スクール：①フットサル②ミニバスケット③ハッチレーシング2④空手道⑤健康トレーニング⑥3B体操

サークル：①ウォーキング②卓球③ミニテニス④６人制バレーボール⑤パッチワーク・クラフト⑥モルック

【会員数】

250名

【事務局】

常勤スタッフ2名（クラブマネジャー1名、アシスタントマネジャー1名）、非常勤スタッフ3名

【指定管理】

湯沢市雄勝スポーツセンター（旧秋ノ宮小学校）

【指定事業】

グラウンドゴルフサーキット大会、こまちハート・オブ・ゴールド杯モルック大会、おがち健康ペアマラソン・フォトハイキング

【公民館事業】

歴史散策(年2回)、創作教室(年2回)、湯沢市民歌謡祭

【自主事業】

介護予防、健康経営、スクール＆サークル無料体験会、スポーツ＆健康フェスタ、ミニテニス交流会、講師派遣事業、まちづくりコーディネート、関係人口創出事業、若者団体設立支援事業、地元小中高連携、大学連携、県外クラブ連携、障がい者施設連携等

2 秋ノ宮地域づくり協議会との連携

以下では、当クラブの地元・秋ノ宮地域での他団体との連携を紹介します。

秋ノ宮雪っこまつり事業協力

秋ノ宮雪っこまつりは秋ノ宮地域づくり協議会主催事業ですが、イベントのなかで行われる競技や遊べるコーナーを当クラブで主に担当いたしました。連携のきっかけは、私が「湯沢市まちづくりコーディネーター」として各地区の自治組織とつながるなかで、地域づくり協議会の課題である高齢化や後継者不足などを解決するため、協力の提案をしたことに始まります。従来この事業はボランティアで行ってきましたが、当クラブの役員が積極的に関わり、地元の若者にもボランティアの協力を呼びかけました。

また、雪っこまつり会場では、当クラブで管理している施設(クラブハウス)やグラウンドを開放し、アリーナでは地域の婦人会の方々が豚汁を無料でふるまいました。さらに、「日赤奉仕団湯沢支部雄勝分団」による災害の備えコーナーも開設しました。秋田県の行政と連携し、イベントで使用する防災食や水、パンフレットなどの手配もサポートしました。

【連携の効果】

- 当クラブのクラブハウスを会場に活用したことで「湯沢市雄勝スポーツセンター」を周知できました。
- 秋ノ宮地域づくり協議会だけでは関わりの少ない若者や女性がスタッフとして関わることができました。
- 関わった若者たちがSNSで情報発信に協力してくれて、たくさんの集客に結びつきました。

【今後の課題】

- 主催が秋ノ宮地域づくり協議会ですので、高齢の方が多く運営面ではスムーズさを欠いた部分を感じました。今後、可能であればクラブがもっと主体的に関わり若者の参画を促しながら取り組むことでさらにスムーズな運営ができればと考えています。
- 地域づくり協議会との連携を活発にすることにより、クラブと地域住民との信頼をさらに深めていきたいと考えています。

秋ノ宮雪っこまつり

「秋ノ宮・若者ミーティング」の開催から「AsoV!va秋ノ宮」の設立へ

「湯沢市まちづくりコーディネーター」として行政との話し合いを通して、湯沢市内の自治組織や集落支援員、各地区センター職員などを対象にした研修の開催や自治組織が行う全住民アンケートの振り返り、計画づくりなどのサポートやアドバイスも行っています。そのなかで自治組織の課題である高齢化や後継者不足などの課題を解決すべく、「若者ミーティングの開催」を秋ノ宮地域づくり協議会へ提案しました。

秋ノ宮地域でも高齢化および人口減少で将来を担う人材不足は深刻な問題です。そこで、湯沢市の行政担当者と連携して、青年会のようなスタイルで地域の若者たちをつなぎ、若者の思いを共有できる「場」として取り組んだのが「秋ノ宮・若者ミーティング」です。地域づくり事業交付金（活動推進部分※上限30万円）を活用し、昨年7月から5回開催されたミーティングでは、地域課題や将来実現したいことなど、若者が抱えるさまざまな意見を吐き出してもらいました。これらの意見交換は、10月開催の「秋ノ宮ネギまつり2024」で第一歩を踏み出しました。そして、年末には若者団体「AsoV!va 秋ノ宮」が設立され、ことし2月の「第3回秋ノ宮雪っこまつり」への参加へと連携の流れはつながっていきました。

【連携の効果】

- 地域に住んでいる若者やその地域に関心のある若者が思いを共有する「場」ができました。
- 若者が自らイベントを企画しアイデアを形に移し、地域活性化等へ寄与しています。
- 若者団体として「AsoV!va秋ノ宮」を設立したことで、地域づくり協議会等とも連携しやすくなりました（個人➡団体）。
- 若者たちは、「地域ゴト」を「自分ゴト」としてとらえるようになり、「参加」から「参画」へと意識が変化したことで、活動に対してより主体的になりました。

【今後の課題】

- コーディネーターとしては発言しすぎずに、あえて失敗にも付き合うことを意識しています。
- 今後、各地区へ若者ミーティングを横展開し、後継者の育成へつなげクラブ活動にもマッチさせたいと考えています。

秋ノ宮・若者ミーティング

3 高等学校、中学校との連携

地域の高等学校、中学校では、当クラブのコーディネートで以下のような連携を実施しています。

秋田県立湯沢翔北高等学校雄勝校との連携

湯沢翔北高等学校雄勝校と連携して、３年生の福祉系選択者による介護職員初任者研修学習の一環として、当クラブの自主事業である「介護予防」に学生を受け入れています。

介護予防

湯沢市立雄勝中学校との連携

❶防災プロジェクト

地域住民の「学校と連携したい」という声と学校の「地域と連携したい」という声を取り入れ、どちらにもメリットがある取り組みの提案を双方へ行っています。そのなかでも、ここ数年重要視されている地域の防災意識を高めるプロジェクトを提案しています。昨年は令和6年能登半島地震の災害本部で従事されている方々とリモートでつながり、生の声を直接聞く機会を学校の授業として設けました。災害当事者からの経験談は生徒たちの防災意識を高めるのにとても効果的でした。

防災プロジェクト

❷地域課題解決プロジェクト

高齢化によって収穫できずに実った「柿」が、そのままの状態になっていること（いわゆる放置柿）で「熊」や「サル」がまちなかに来てしまい、人身被害や農作物被害が発生しています。この課題を解決するために、中学生と地域が連携し、放置柿の収穫を中学生が手伝い、「横堀地域づくり協議会」所有の乾燥機でドライフルーツにして提供者へ届けています。

地域課題解決プロジェクト

4 ゆざわ関連イベントの開催

ゆざわEnjoyスポーツコミッション「スポーツ＆健康フェスタinゆざわ」の開催

湯沢市内のスポーツ団体が連携して取り組む初めての事業としてゆざわEnjoyスポーツコミッション「スポーツ＆健康フェスタinゆざわ」を、昨年10月に開催しました。市内の総合型地域スポーツクラブ、スポーツ協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員会、湯沢市スポーツ振興班、民間の薬局、社会福祉団体、飲食店など、スポーツ関係団体はもちろんですが、それ以外の事業者を

巻き込むことで、新規顧客の獲得や指導者の横のつながりをつくることを目的としました。フェスタ自体は子どもから大人まで参加して体を動かすことの楽しさや健康を意識できる体験型イベントで、キッチンカー等の飲食関連も参加し、地域の活性化にも寄与しています。

【連携の効果】

●この取り組みを通して、他団体の得意分野や新しい指導者とのつながりを創出できました。
●子どもから年配の方まで幅広い年代へ向けたアプローチができました。
●市外で活動している方々にも来場いただけました。
●薬局等の参加のおかげで、スポーツだけではなく「健康」にも目を向けることができました。

ゆざわEnjoyスポーツコミッション「スポーツ＆健康フェスタinゆざわ」

秋田大学との連携事業「学生を交えた総合型地域スポーツクラブ発表会inゆざわ」の開催

総合型地域スポーツクラブ、秋田県の行政、秋田県スポーツ協会、秋田大学などの関係者がことし2月、「総合型クラブ」を題材に発表会を行い、身体を動かしながら楽しく交流しました。この取り組みは、交流から生まれる活力やアイデア、新たな出会いを次の展開につなげていくことが目的です。湯沢市内には4つの総合型クラブがあり、それぞれ地域事情に合わせた形でクラブを運営しています。そこで実際に指定管理している施設へ出向き、フィールドワークを通してクラブの実情を把握しました。その後、クラブの可能性やビジョンなどを発表したうえで意見交換しました。

【連携の効果】

●市内の他クラブとは定期的に顔を合わせる関係でしたが、クラブハウスなどを訪問しながらじっくり話を聞き、クラブの可能性について、行政やスポーツ協会、大学が入ることでいつもとは違った意見や発想も得ることができました。いつも自分たちが活動しているフィールドへ足を運んでいただき、地域事情なども体感していただきながら意見交換できたことは非常に有意義でした。

学生を交えた総合型地域スポーツクラブ発表会inゆざわ

5 設立25周年へ向けての展望

「地域から必要とされる総合型クラブ」へ発展していきたい

地域とともにある総合型地域スポーツクラブをめざしておりますので、まずはその地域が存続できるように持続可能なまちづくりへ向けた取り組みをクラブとしても積極的に関わっていきたいです。

新たな時代へ向けた取り組みとしては、地域をコーディネートする役割をスポーツの枠を超えて行うことで地域住民からも信頼され、クラブの認知度も高めていきたいと考えています。その結果、クラブ事業へも関心を持っていただき「地域から必要とされる総合型クラブ」へ発展していくことを目標とします。そのためには、地域住民が主体的に関われる仕組みを「スポーツ振興」「まちづくり」「関係人口」「福祉」「教育」の分野において構築したいと考えています。さまざまな分野において、中間支援組織としての機能を強化し地域を担う「新しい総合型クラブ」として認知されるよう活動していきます。

情報過多のこの時代において「信頼」をどう構築するか、登録認証制度によって国のお墨付きをいただきながら、公共性の高い事業を地域住民に寄り添った形で展開しつつも、しっかりと経営体としてクラブをマネジメントしていきたいと思います。

NPO法人こまちハート・オブ・ゴールド　クラブマネジャー　菅 善徳

クラブプロフィール

設立年月日	平成17(2005)年4月1日(平成22年1月21日 法人登記)
所在地	秋田県湯沢市秋ノ宮字中島365番地
運営	会員数:220名(令和7年3月現在)、予算規模:37,000,000円(令和6年度)
特徴	「スポーツだけじゃない総合型な地域運営クラブ」 秋田県湯沢市(雄勝地域)を拠点に、スポーツ振興、地域づくり、福祉、教育、観光、文化活動など多面的な分野で活動している地域中核クラブで、「地域密着」「多世代支援」の実践クラブです。
連絡先	〒019-0321　住所:秋田県湯沢市秋ノ宮字中島365番地 TEL:0183-55-2277 FAX: 0183-55-2277 HP:https://komachi-hog.sakura.ne.jp/ E-mail:Komachi-hog5380@beige.plala.or.jp

★本記事の読み上げ動画を作成しました！
忙しく記事を読む時間がない方でも、耳を傾けていただくだけで内容を把握することができるよう、本記事を読み上げた動画を作成しました。移動時間やスキマ時間などにぜひご活用ください！
動画はこちら➡https://youtu.be/-LLlvpPBKKg

過去の動画はこちら

連載

★学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブ★

一般社団法人スポルトフェライン高松
香川県高松市

　学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。
　文部科学省では、令和5(2023)年から令和7(2025)年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう各自治体に求めており、総合型クラブにおいても学校運動部活動との連携が期待されています。
　そこで今回は、学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブを紹介します。

1　クラブ概要

硬式テニスクラブの活動サポートがきっかけ。「～まち全体をスポーツフィールドに！～」を理念に発足

　クラブがあるのは、香川県の県庁所在地である高松市の中心部に位置する紫雲校区です。
　高松市は現在人口約42万人で、香川県内人口の44.8％を占めており、そのうち紫雲校区の人口は316,000人ほどとなっています。
　平成20(2008)年ごろ、代表理事が指導者として関わる紫雲校区の民間テニスクラブに通っていた小学生から「中学校でも硬式テニスがしたいけど部活動がない」と相談がありました。紫雲中学校にはテニス同好会はあるものの、顧問のなり手がいない、校内のテニスコートはソフトテニス部が活用しており空いていないといった理由から部活動がなく、代表理事が公営テニスコートや近隣の香川大学テニスコートを借りて個人的にサポートを行っていました。
　こうした現状を踏まえ、代表理事が中心となり平成23(2011)年度に設立準備委員会を発足。toto助成事業「創設支援事業」を活用し、2年間の準備期間を経て平成25(2013)年度「～まち全体をスポーツフィールドに！～」を理念としたクラブを発足しました。
　現在は看板種目である硬式テニスを中心に、貯筋運動教室、トレイルランニングを加えた3種目の定期活動に取り組んでいます。

クラブの立ち上げ当初から参加しているテニスメンバー

高松市が一望できる石清尾山塊でのトレイルランニング

地域のコミュニティセンターで実施する貯筋運動教室

香川大学テニスコートでのキッズテニス。大学生がスタッフとして協力してくれている

2 取り組み内容

部活動支援を行う種目ごとに練習会、体験会、交流会を行い、目的に合った種目とレベルに参加

これまでは代表理事が個人で硬式テニスの部活動支援を行っていましたが、令和5（2023）年度から公益財団法人スポーツ安全協会による中学校等の放課後活動への助成（中学校部活動地域連携・移行普及事業）がスタート。これを受託し、クラブとして部活動支援に取り組むことになりました。（参考　https://www.sportsanzen.org/sports/subsidy.html）

令和5（2023）年度～令和7（2025）年度の3年間受託しており、現在3年目（助成最終年度）になります。令和7（2025）年度は、硬式テニス、ハンドボール、野球（軟式・硬式両方）の3種目に取り組んでいます。

硬式テニスは代表理事およびスタッフ、野球は元横浜DeNAベイスターズでアスレティックトレーナーとして活動していた指導者が教えています。野球については代表理事が指導者から部活動支援に関する相談を受けたことを契機として活動をスタートさせました。

また、ハンドボールは県内強豪チームである香川銀行もしくは高松ハンドボールクラブの指導者に依頼予定で現在調整中です。ハンドボールはクラブ会員から「孫がハンドボールをやりたがっているけど指導者がいない」と相談を受けたことがきっかけで取り組みが始まりました。

事業概要

年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
助成額	50万円(満額)	35万円	45万円
実施種目	硬式テニス	硬式テニス	硬式テニス、ハンドボール、野球 ※野球は軟式･硬式両方
実施時期	10月～3月	5月～3月	5月～3月(予定)
内容	練習会 (2時間／回、月2回)	練習会(2時間／回、月2回) 体験会(不定期) 交流会(午前／午後それぞれ3時間、計6時間を１日で実施し、これを1回とする)	◆硬式テニス 練習会(2時間／回、月2回) 体験会(不定期) 交流会(午前／午後それぞれ3時間、計6時間を1日で実施し、これを1回とする) ◆ハンドボール:練習会、体験回、交流会すべて含め7回 ◆野球:練習会、体験回、交流会すべて含め全9回
平均 参加人数	6人	6人	◆硬式テニス:6人(予定) ◆ハンドボール:9人(予定) ◆野球:9人(予定)
参加費	1,000円／回	練習会:1,000円／回 体験会:500円／回 交流会:2,000円／回	◆硬式テニス 練習会:1,000円／回(2時間) 体験会:500円／回 交流会:3,000円(3時間1,500円) ◆ハンドボール、野球 練習会、体験回、交流会いずれも500円／回

本事業では、種目ごとに①練習会、②体験会、③交流会の3つの事業を行っており、それぞれ

①練習会:練習の機会をつくる。

②体験会:事業を知ってもらうことが目的。継続して活動したい人は練習会への参加を促す。

③交流会:違う学校の生徒同士や初心者と経験者など、ふだん一緒にプレーする機会のない参加者同士の交流を目的とした事業。

と、異なる目的で実施されています。

非会員でも参加可能としており、クラブ会員はスポーツ安全保険を、非会員は単発のレクリエーション保険に加入することでリスクマネジメントを図っています。

活動を紹介したチラシ

3 「地域密着やスポーツライフについて考えること」や、「スポーツに取り組む選択肢が増えた」など参加者の声に寄り添った活動をめざす

令和5(2023)年度から、事業のたびに参加者の子ども・保護者・指導者に口頭でヒアリングを行っており、以下のような声が届いています。

●参加者(子ども)

「専門指導を受けることができてとても勉強になった」

「もっと実施回数を増やしてほしい」

「ふだん試合で競うことはあっても交流することのない他の学校の参加者と一緒にプレーできて楽しかった」

●保護者

「会場が主に中学校校区内や近隣での実施で、保護者や家族などの送迎を必要とせず助かっている」

「参加費など、民間スポーツクラブなどより安価にて費用を抑えることができている」

「学校内の部活動と違い、辞めることや変えることが容易だ(親の考えとしても、選択肢が増えた)」

「部活について、家族で子どもと話す機会を持てた」

「今後の部活動がどうなっていくのかを知る機会になった」

●指導者

「顧問の先生や学校側、また行政との相談を行う機会が増え、学生や子どもたちを中心とした、地域密着やスポーツライフなどについて考える機会が増えた」

「今後の部活動のあり方や地域展開へ向け、必要となることや変えていくことなど、当事者意識を持ち考えることが増えた」

「勝敗にこだわりすぎず、指導やサポートを行えている」

「指導者として、学生たちや子どもたちに接する場や機会が増え、学びが持てている」

などの肯定的な声が多く寄せられています。さらに、よりよいクラブ運営ができるよう、しっかり参加者の声に耳を傾け、「実施回数の増設(平日での実施も含め)」、「(自分より)うまい人と練習や試合をしたい」、「有名な選手やプロの指導を受けたい」、「クラブチームでも全国大会へ出場したい(優勝しても全国大会へ出場できない種目もある)」、「電子マネーでの参加費などの支払い(現在は、現金支払いおよび振込みに対応)」など、参加者が望む形で事業が実施できるよう取り組んでいきます。

部活動支援の様子

高松市との連携を深めること、積極的な情報共有が課題

現在の課題は、参加費の設定と高松市行政との連携の2点です。

参加費について、硬式テニスは民間テニスクラブが普及していることもありお金を払ってスポーツをすることに抵抗感はあまり見られません。一方で、ハンドボールと野球については本年度の実施を通してヒアリングを行っていく必要があります。

例えば野球では、指導者と学校教員を交えた話し合いのなかで「団体競技では部やチームから指導者に謝金が支払われることが多く、参加者個人から指導者個人へ謝金を支払うイメージがしにくいのではないか」といった意見が出ており、個人種目と団体種目で参加費の徴収および謝金の支払い方法を工夫する必要があると感じています。

高松市行政との連携について、現在は教育委員会から事業に後援をいただく限定的な連携にとどまっています。

高松市は県内でいちばん人口規模が大きく学校数も多いため、市として部活動の地域展開に関する具体的な方針が、現時点では明確に示されておらず、そのため、現在は対応可能なクラブが、できる範囲で取り組みを進めている状況です。

部活動支援はスポーツ安全協会助成事業の助成期間終了後もクラブとして継続的に取り組む予定であり、令和5(2023)年度からの取り組み実績を活かして、市と積極的に情報共有を図っていきます。

4 ネットワークを活かし、未来を見据えた新しい展開を

高松市は、公益財団法人高松市スポーツ協会が市内体育施設の指定管理者となっているため、総合型クラブが指定管理者になることができません。また、人口に対してスポーツ施設の数が不足していることもあり、クラブが安定して活動できる場所の確保がいちばんの課題となっています。

この部活動の地域展開を契機に、拠点地域内の学校や大学と連携を図り、クラブとしてより安定的な活動ができるよう取り組んでいきたいと考えています。

現在、クラブではマンパワーが不足気味であり、実施種目においても指導者が抜けるとその種目自体が継続できなくなるという課題を抱えています。

部活動の地域展開のみならず、1クラブでは実施できる種目にも限界があるため、香川県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会のクラブネットワークを活かして、指導者の共有や新たな事業展開に力を入れていきたいと考えています。

一般社団法人スポルトフェライン高松　代表理事　**松下 隆**

クラブプロフィール

設立年月日	平成25（2013）年3月22日（平成30年4月2日 法人登記 ）
所在地	香川県高松市井口町7-9
運営	会員数：43名（令和6年10月現在）、予算規模：1,500,000円（令和6年度）
特徴	特定の母体や団体を持たず、志を同じくする有志が集まり、一から立ち上げた地域スポーツクラブです。 幼児から高齢者まで幅広い世代の方々が参加しており、県内トップレベルの選手や経験豊富な指導者・協力者とともに、継続的に活動を行っています。 地域に根ざした運営を重視し、参加者の目的やニーズに応じた多様なプログラムを展開しています。 また、誰もが気軽に参加できる開かれた環境を提供し、健康づくりや世代間交流の場としての役割も果たしています。 今後も、地域社会に貢献できる持続可能なクラブ運営をめざしています。
連絡先	〒760-0038 住所：香川県高松市井口町7-9 TEL：090-3988-9917 HP：https://www.facebook.com/svt2018/（Facebook） E-mail：svt20180328@gmail.com

総合型クラブで活躍する若手人材

総合型クラブが、クラブの持続的な発展と地域スポーツの活性化を図るうえで、次世代を担う人材の活躍や育成が必要となります。そこで今回は、実際にクラブで働く若手人材に焦点を当て、日々の取り組みや彼らが抱く想いをご紹介します。

黒澤ちほ　File01

●年齢:25歳●役職:クラブマネジャー●クラブ活動歴:6年
●クラブ名:特定非営利活動法人 まつぞのスポーツクラブ
●設立年月日:平成15(2003)年5月18日
●クラブの特徴:自然豊かな松園地区を活動拠点としており、スポーツに限らず文化活動などのさまざまな事業展開を行っているクラブです。少子高齢化に伴い、クラブ運営のあり方や事業内容の見直しを課題として抱えています。
●クラブ会員数:150名
●クラブ住所:岩手県盛岡市西松園3-19-4　盛岡市立松園テニスコート内
●電話番号:019-663-9280
●メールアドレス:head@matsuspo.net
●ホームページ: https://matsuspo.net

詳細は16ページへ

狩野良太　File02

●年齢:35歳●役職:インストラクター・施設管理チーフ
●クラブ活動歴:10年
●クラブ名:特定非営利活動法人 しんじ湖スポーツクラブ
●設立年月日:平成14(2002)年3月21日
●クラブの特徴:地域住民に対して、健康・スポーツ活動の普及推進に関する事業を行い、スポーツ振興を図るとともに、子どもから高齢者・障がいのある方まで地域住民の健康で明るい町づくりに貢献することを目的に活動。地域住民が主体となって運営・参加する、地域住民のためのスポーツクラブです。
●クラブ会員数:548名
●クラブ住所:島根県松江市宍道町佐々布204-4
●電話番号:0852-66-8686
●メールアドレス:sports-shinji.no1@violin.ocn.ne.jp
●ホームページ: http://shinjiko-sportsclub.com/

詳細は17ページへ

桐原正喜　File03

●年齢:44歳●役職:クラブマネジャー●クラブ活動歴:9年
●クラブ名:NPO法人クラブおおづ
●設立年月日:平成15(2003)年4月27日
●クラブの特徴:総合型スポーツクラブとして設立され、平成20(2008)年にNPO法人格を取得。設立当初は、大人のサークル、ジュニアスクール(スポーツ活動)を主な活動としていましたが、現在では、行政から委託事業を受け、町全体のニーズに対応した事業にも取り組むようになり、より地域に必要とされるクラブ運営をめざしています。
●クラブ会員数:410名
●クラブ住所:熊本県菊池郡大津町森1000番地 大津町運動公園内
●電話番号:096-294-2922
●メールアドレス:clubozu150427@yahoo.co.jp
●ホームページ: https://clubozu.com

詳細は18ページへ

File 01 「本当に充実した毎日を送っています！」

黒澤ちほ

特定非営利活動法人 まつぞのスポーツクラブ

クラブ運営に携わろうと思ったきっかけ

大学のゼミでお世話になった浅沼道成先生に『うちのクラブで手伝ってみない？』と声をかけてもらったのがきっかけです。最初はアルバイトで、小学生向け教室の受付やサポートをしていました。そこで、自分が育った地域と密接に関われることや興味があったスポーツ分野に携われることにすごく魅力を感じて、『これだ！』と思い、クラブの運営に携わるようになりました。当時のマネジャーがホームページの管理なども任せてくれるようになり、仕事がどんどん増えていきました。今では、クラブ運営全体はもちろん、教室の受付とか細かい事務作業、会員とのやり取りまで、本当に充実した毎日を送っています！

クラブ運営を行って、やりがいを感じていること

いちばんやりがいを感じるのは、参加者の方からの直接的な反応ですね。「ありがとう」「楽しい」「元気をもらえる」と言ってもらえると、本当に『やっていてよかった！』って強く思います。そういう声が、活動の大きなモチベーションになっています。

クラブ運営において悩んでいること

スタッフが少ないので、事業を広げたくても人手が足りなかったり、逆に事業を縮小せざるを得なくなったりと、運営はなかなか大変です。周りに相談できる相手も多くないので、心細く感じることもありますね。

総合型クラブで若手人材が活躍するために必要なこと

当クラブにはインターンシップで来る学生が多いです。なかには「将来、クラブ運営に関わりたい！」って言ってくれる人もいますが、「これで生活できるのか？」とか「クラブって安定しているの？」という現実的な部分の懸念点が、最後の一歩を踏み出せない理由かなと感じます。今後もっと若い人材を増やすためには、クラブの運営が安定するような仕組みを根本的に見直していく必要があると強く思っています。

総合型クラブの認知度を上げていくために必要なこと

当クラブは地域で名前は知られていると思いますが、具体的な教室の内容とか、どんなクラブなのかというところは、意外と知られていないようです。そのため教室事業だけではなく、さまざまなプログラムや事業も実施していることを、もっと積極的に伝えていかないといけないと思っています。今、情報発信で活用しているのは、地域の広報誌や新聞です。これはネットを使わない高齢者の方によく見てもらえます。一方で、ホームページやFacebookは、幼児や小学生の保護者の方から利用されています。こうやって、世代に合わせて告知方法を使い分けて、効果が出るように工夫しています。

特に、幼児や小学生の保護者の方にはLINEを連絡ツールとして活用しています。メールを見ない方も多いので、活動内容や日程、月謝などをLINEで一括送信するようにしたら、私自身の業務負担も減りすごく助かっています！

介護予防教室

グラウンドゴルフ

File 02「皆さんの夢や目標になるような活動を！」

狩野良太
特定非営利活動法人 しんじ湖スポーツクラブ

クラブ運営に携わろうと思ったきっかけ

学生時代サッカーをやっていたこともありスポーツの素晴らしさを伝えたい、そのために指導に携わりたいと思っていました。加えて、地元のスポーツを盛り上げたいという思いもあり、アクティブ チャイルド プログラムほかJSPO等の講習会への参加等を通じて、クラブを知り運営に興味を持ちました。

インストラクターのやりがい

自分も体を動かすことが好きですし、子どもから高齢者の方までスポーツや体を動かすことの楽しさを伝えたいという想いがあります。例えば子どもたちがクラブで扱っている運動遊びを学校の昼休みや放課後に自主的に取り入れて「この前遊んだよ！」という声を聞くととてもうれしくなります。また、日常的に運動するように呼びかけている高齢者の方にも「継続してこんなこと取り組んでみた」と、言っていただけることがやりがいにつながっていると思います。

インストラクターとして活動するなかで、記憶に残っていること

クラブを卒業した中学生に街で会ったときに「クラブでの運動遊び、すごく楽しかったから先生ずっと指導を続けてね」と、言われたことが印象に残っています。また、中学校に入ってもクラブでの運動が楽しかったと話をしていると聞き、子どもたちのなかに楽しかった運動の思い出として残っていることがとてもうれしいです。

インストラクターとして活動するなかで、悩んでいること

ありがたいことに、高齢者の体操や子どもの運動遊びなど、外部から指導のご依頼をいただく機会が増えていて、今後も活動を広めていきたいと考えています。しかし、今以上に依頼が増える場合、断ることも可能性として出てくるかもしれません。そういったときに、同じ分野のインストラクターがもう少しいると、地域の依頼に応えることができるのかなと思い、人材・財源確保の点で課題を感じています。

若手のインストラクターの仲間を増やしていくために

島根県スポーツ協会が若手のインストラクターのLINEのグループをつくってくださり、一度みんなで集まりました。このような機会を通じて横のつながり、コミュニケーションがとれるようになってきています。これからこの仕事に興味を持ってもらうためにも、できるかぎりアンテナを張り、魅力を伝えていきたいです。

将来の展望

若い世代の育成を行っていきたいです。総合型スポーツクラブが職業の選択肢の一つになるように、学生の世代の方と話をしていくことが短期的な目標です。

私たちのクラブの特徴として、地域住民の皆さんが主体となって、運営、または参加することが根底にあります。運動実施・イベント等を行う事業部会、福祉をメインで動く健康福祉部会や子どものスポーツ環境を整えていくジュニア部会、施設管理部会と4つの部会があり、それぞれ地域の皆さんに委員として入っていただいています。これらの部会を通じていただいたご意見をクラブの運営に活かしています。こういった活動をさらに充実させ、今後は学生の皆さんのキャリアの選択肢の一つに総合型クラブが加わるように、クラブの持続的な運営も含めて皆さんの夢や目標になっていくような活動をしていきたいと思います。

狩野さんと遊ぶ子どもたちには、笑顔があふれる。「僕のことを遊び道具だと思ってるんですよ（笑）」と、狩野さん

運動が苦手という高齢者の方々が自宅でも続けられるようなアイデアを提供

File 03 「スポーツを通じた元気なまちづくり」の実現をめざします

桐原正喜
NPO法人クラブおおつ

クラブ運営に携わろうと思ったきっかけ

2016年４月にクラブが町から受託した体育施設のトレーニングルームの管理運営の業務を任されたことをきっかけにクラブに携わることになりました。初めは、中学生のサッカーの指導を行いながら、トレーニングルームの管理運営を行っていました。その後、前任のクラブマネジャーがクラブを抜けることとなり、次にクラブのマネジメント業務をやってほしいと依頼を受け、2019年からはクラブ全体の運営を行うようになりました。

総合型クラブで若手人材が活躍するために必要なこと

まず指導者の育成です。設立当初から携わっている方々も、年齢を重ねてきました。その経験や活動をいかに次世代につないでいくかがテーマです。

近年では、以前クラブに加入していた子どもたちが、成人し地元に帰ってきて、今度は指導者としてクラブに携わってくれる流れができつつあります。そういった若手人材の確保も課題解決に向けたきっかけになると思っています。

また、持続可能なクラブ運営のためにも雇用を促進し、安定した収入を得るための基盤づくりも必要です。職員については、個別の事業だけを担当するのではなく、クラブ全体を把握し、その全体像のなかで自分の業務を遂行していくことが主体的にクラブ運営に携わる姿勢につながるのではないかと考えています。そのためにも、クラブマネジャーの資格取得なども積極的に促していかないといけないと思っています。

今後は、新たな地域のニーズに応えていくための体制づくりや予算をいかに確保していくかといった課題にも取り組んでいきたいと思います。

クラブに対する想い

クラブはこれまで、たくさんの方々の支えや想いにより、地域での活動を続けることができました。行政からもクラブの取り組みを理解していただき、地域課題解決のための委託事業を受けるようにもなりました。

それに伴い、新たな地域の方々と接する機会も増え、地域の課題に対して活動する場面が広がりました。こうした取り組みの積み重ねにより、クラブの存在を少しずつ地域の方々に知っていただくようになってきました。

クラブは、設立当初から「地域とのつながり」を大切にしてきた団体なので、これからも、より多くの地域の方々から頼りにされる存在でありたいと思っていますし、頼られたときにしっかり応えられるクラブであり続けたい、そんな想いで活動を続けています。

若手人材を育成していくために工夫していること

若手の職員には、フォローしながら少しずつ事業を任せるようにしています。

また、私自身がクラブ運営に携わり始めたころ、目の前の事業だけを見すぎて、クラブ全体のことがわからず苦労した経験があるので、クラブの全体の事業や取り組みをみんなと共有するようにしています。

将来の展望

これまで以上に多くの町民の方に出会い、クラブの存在や活動を知っていただき、気軽に参加してもらえるようなクラブを、私たちの活動に共感してくださる地域の方々とともにつくっていきたいと思っています。また、設立当初から掲げてきた「100年続くクラブ」という目標のもと、「スポーツを通じた元気なまちづくり」を実現し、日常のなかにクラブが根づき、生活の一部となるような地域の姿を目指していけたらと思います。

住民によって企画運営、高齢者の皆さんが集う「通いの場」

ドッジボールで思いきり体を動かす子どもたち

３人からのメッセージ

今後総合型に関わりたいと考えている方へ――黒澤ちほ

総合型クラブに関わるうえでは経営・運営・指導など、さまざまなスキルを求められる場面が多くあります。私自身、すべてを完璧にこなすことはできず、自分の力不足を感じる日々ですが、それでも地域の皆さんに支えられながら活動を続けています。

そうした地域とのつながりこそが、総合型クラブの大きな魅力であり、やりがいでもあると感じています。すべてを完璧にできなくても大丈夫です。支えてくれる方々の存在を力に変えて、ぜひ前向きな気持ちでチャレンジしてほしいと思います。

同世代の仲間へ――狩野良太

「同じ業種で『同世代の仲間がいる」ことは、自分の励みになり、また刺激にもなります。

なかなか会う機会はないですが、これからも一緒に頑張りましょう！

今後総合型に関わりたいと考えている方へ――桐原正喜

スポーツをきっかけに人と人がつながり、笑顔や元気が地域に広がっていく。私たちは、そんな未来を皆さんと一緒に育てていきたいと願っています。

クラブは、単にスポーツをする場所ではなく、世代や立場を超えてつながり合える「地域の居場所」です。多くの方々と、手を取り合い、支え合うことで、地域に根ざした継続的な運営ができると思っています。

これからも、活動に共感し関わってくださる仲間を一人でも多く増やしていきたいと考えています。

そして、総合型クラブが「地域にとって必要な存在」であり続けるために、皆さんとともにその価値と可能性を広げ、地域の未来をともに創っていきましょう。

助成金情報

スミセイコミュニティスポーツ推進助成プログラム

[実施団体]（公財）住友生命健康財団

　コミュニティスポーツを「地域において様々な人々が、楽しみながら参加・交流し、スポーツを通じて一人ひとりの健やかな暮らしの実現をめざす取り組み」と捉え、スポーツを楽しむ文化が地域に根づき、社会の新しい価値を創り出すような取り組みを助成します。

・チャレンジコース…地域におけるコミュニティスポーツのチャレンジと、その後の自立・発展をめざすもの

・アドバンスコース…地域を超えたコミュニティスポーツの展開や、特定の地域におけるコミュニティスポーツの深化をめざすもの

[申込期間]

令和7（2025）年7月1日（火）～8月24日（日）[当日必着]

　助成プログラムの詳細は【応募要項】を参照のこと。これまでの助成対象団体の取組事例などは【助成プログラム パンフレット】、【助成先取組状況】をご覧のうえ、各コースの「応募用紙」「応募用紙作成の手引き」は次のリンクからダウンロードしてください。

https://skzaidan.or.jp/sports_grant/

高齢者福祉助成（近畿2府4県限定）

[実施団体]（公財）大阪ガスグループ福祉財団

　活力あふれる長寿社会を実現するため、「高齢者の福祉向上あるいは健康の維持・増進を目的とした実践的な調査・研究」に対して助成します。

　また、高齢者の多様なニーズに沿った「分野横断的な調査・研究」や福祉現場からの「実践的な創意工夫の調査・研究」についての応募も実施。

※主たる研究者が近畿2府4県内に在住あるいは勤務し、その研究者が左記府県内で実施する調査および研究限定です。

[申込期間]

令和7（2025）年7月1日（火）～9月8日（月）

申込書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、福祉財団へ提出してください。

https://www.osakagas.co.jp/company/efforts/fukushi/jyosei/kenkyu_detail.html

お知らせ

スポーツ活動中の熱中症予防

熱中症とは、暑熱環境で発生する障害の総称で、「熱失神」、「熱けいれん」、「熱疲労」、「熱射病」にわけられます。

近年、「熱中症」という言葉自体は一般にも広く知られるようになってきました。しかし、熱中症事故は毎年発生しており、今後も地球温暖化の進行や人口の高齢化が進むなかで、熱中症のリスクはさらに深刻化していくと考えられます。

スポーツによる熱中症事故は、適切に予防さえすれば防げるものです。当協会では、熱中症予防に関する啓発資料としてガイドブックや啓発動画、教育機関向けポスター（壁新聞）などを公開しています。スポーツ活動中の熱中症予防にぜひお役立てください。

6年ぶりに改訂！JSPO発行『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』

スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック（第６版）

このたび、当協会発行の『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』を6年ぶりに改訂しました。最新の知見や現場のニーズを反映し、より実践的でわかりやすい内容となっています。

熱中症予防の原則をまとめた「スポーツ活動中の熱中症予防５ヶ条」が新しくなりました

【改訂前】▶ 4. 薄着スタイルでさわやかに➡【改訂後】▶ 4. 冷やそう、からだの外から内から

スポーツ活動中の熱中症予防5ヶ条

1.暑いとき、無理な運動は事故のもと

気温が高いときほど、また同じ気温でも湿度が高いときほど、熱中症の危険性は高くなります。また、運動強度が高いほど熱の産生が多くなり、やはり熱中症の危険性も高くなります。暑いときに無理な運動をしても効果はあがりません。環境条件に応じて運動強度を調節し、適宜休憩をとり、適切な水分補給を心掛けましょう。

2.急な暑さに要注意

熱中症事故は、急に暑くなったときに多く発生しています。夏の初めや合宿の初日、あるいは夏以外でも急に気温が高くなったような場合に熱中症が起こりやすくなります。急に暑くなったら、軽い運動にとどめ、暑さに慣れるまでの数日間は軽い短時間の運動から徐々に運動強度や運動量を増やしていくようにしましょう。

3.失われる水と塩分を取り戻そう

暑いときには、こまめに水分を補給しましょう。汗からは水分と同時に塩分も失われます。スポーツドリンクなどを利用して、0.1～0.2%程度の塩分も補給するとよいでしょう。

水分補給量の目安として、運動による体重減少が2%を超えないように補給します。運動前後に体重を測ることで、失われた水分量を知ることができます。運動の前後に、また毎朝起床時に体重を測る習慣を身につけ、体調管理に役立てることが勧められます。

4.冷やそう、からだの外から内から

過度な体温の上昇は運動能力を高めますが、暑さの厳しい中での運動では体温が大きく上昇し、運動能力の低下や熱中症を引き起こしてしまいます。身体冷却を用いることで暑さの中でも体温の過度な上昇を抑えることができ、運動能力や認知機能の低下、多量の汗による脱水を防ぐことができます。

熱を逃がしやすくするために軽装にしましょう。また、防具を着けるスポーツでは、休憩時に防具を外して熱を逃がしましょう。

5.体調不良は事故のもと

体調が悪いと体温調節能力も低下し、熱中症につながります。疲労、睡眠不足、発熱、風邪、下痢など、体調の悪いときには無理に運動をしないことです。また、体力の低い人、肥満の人、暑さに慣れていない人、熱中症を起こしたことがある人などは暑さに弱いので注意が必要です。学校で起きた熱中症死亡事故の7割は肥満の人に起きており、肥満の人は特に注意しなければなりません。

教育機関向けポスター（壁新聞）